

## 第2回鹿野の魅力再発見

H30.12.7 鳥取県埋蔵文化財センター

### 【鹿野河内の地勢的・歴史的重要性】

#### 1 鹿野河内の重要性

##### ① 因伯幹線

- ・因幡国府－桜谷－赤池－多治見峠－野坂－三山口－吉岡－上光元－鹿野－河内－三徳山－三朝－伯耆国府

※物流だけでなく、修験者による情報伝達ルート

##### ② 東南につながるターミナル

- ・元亀2（1571）年に荒神山城の城番矢田氏が毛利方を離脱しようとした際、矢田氏支援の兵糧を備前から搬入の動き
- ・日置川奥の青谷町小畑から険しい山道と尾根道の先に三朝町俵原があり、俵原から鹿野町河内を経て東へ行くと鷲峰山の南側で野坂川上流の鳥取市安蔵へ。千代川の支流には砂見川の岩坪や佐治川の佐治があり、千代川筋の紙漉集落と日置川筋の山根、河原集落は山道のルート

#### 2 鹿野城の近世までの歴史的 성격

##### ① 南北朝期：国人領主の居城

##### ② 室町時代：因幡守護山名氏清系一族の居城

##### ③ 戦国時代：但馬守護山名持豊系一族の居城

→戦国大名尼子氏配下の居城

→戦国大名毛利氏の戦略的軍事拠点

##### ④ 織豊時代：豊臣大名亀井茲矩の居城

#### 3 鹿野河内の城

くしな

##### ① 狗尸那城（鹿野町鷲峰 標高352m、比高260m）

- ・曲輪。防御施設は堀切、土塁、横堀、塹堀で迷路状の塹壕のよう
- ・北側は急斜面で曲輪もないが、眺望はよく、宮吉城が見える
- ・伯耆筋、河内谷奥部を警戒。居住性や機動性よりも、要害を重視し険しく高い山地に築城
- ・城主として山名弾正の伝承。気多郡は但馬山名の影響が強い地域



【横堀】



【つぶて石】

##### ② 荒神山城（鹿野町河内 標高466m、比高260m）

- ・曲輪。防御施設は大堀切、畝型阻塞

- ・三徳越えを意識。

- ・城主に因幡守護山名誠道の頃の矢田幸佐（雲州住人）



【荒神山城 遠景】



【堀切】

#### 4 因幡をめぐる争いと鹿野の城

鹿野の城は、因幡・伯耆の境目にあり、但馬山名・出雲尼子戦争、但馬山名・毛利戦争、織田・毛利戦争における地勢上重要な拠点であり、争奪の対象であった。

- ・天文12（1543）年、天神山城の因幡守護山名誠通（久通）は惣領家の但馬山名から独立を図り尼子晴久の傘下へ
- ・天文13年、東進する尼子軍と、阻止しようとする但馬軍が因幡で激突。尼子晴久は大崎城を攻略し、鹿野城の鹿野入道以下を殲滅
- ・天文14年、但馬守護山名祐豊により布施天神山城が落城。布施天神山城は山名豊定（祐豊の弟）から豊数（豊定の子）まで但馬山名勢が実権を握る。
- ・永禄6（1563）年、毛利方の支援を受けた鳥取城武田高信（因幡山名旧臣）により、布施天神山城を追われた山名豊数は「鹿野城」（狗尸那城との説がある）に退去。翌年、「鹿野城」は毛利方に攻められ撤収し、但馬山名は気多郡からも一掃。武田高信、毛利氏により因幡制圧
- ・天正元（1573）年、山中鹿介ら尼子党の乱入により鳥取城の武田高信が退去し、山名豊国（山名豊数の弟）が鳥取城に入城
- ・天正元年に「鹿野城」城番の野村氏が毛利輝元から「因伯仕切りの城」として鹿野古城の再建を命じられ、「因伯仕切りの城」として再建された鹿野城は、天正7年まで毛利方の最重要拠点の一つに
- ・天正7年に東伯耆羽衣石城の南條氏が毛利方から織田方に転じ、鹿野城は最大の危機
- ・織田方は天正8年5月、播磨・但馬を平定した羽柴秀吉が第一次因幡侵攻により鹿野城をはじめ毛利方の諸城を攻略。鹿野城には山名豊国以下諸将の人質が集められていたが、人質は織田方にとられ、鳥取城の山名豊国は投降。鹿野城には亀井茲矩を城番として派遣
- ・毛利方も8月に吉川元春が東伯耆に攻め入り、南條氏の羽衣石城へ攻勢
- ・亀井茲矩に追い出された鹿野城主鹿野氏は、天正8年9月に毛利方の調略により荒神山城に転じて拠点化し、織田方の羽衣石城は毛利方に包囲され孤立
- ・天正8年の豊国降伏をうけて、鳥取城の重臣たちは豊国に背いて追放
- ・鳥取城を毛利方に奪い返されていた織田方は鹿野城も分断されたため、天正9年1月に亀井茲矩は毛利方の気高町宮吉城の田公氏を調略し、鳥取城への補給路を断とうとしたが、吉川元春により鎮圧
- ・天正9年3月、毛利方の吉川経家が鳥取城へ入城。
- ・羽衣石城の南條氏は天正9年8月に三徳山下で杉原盛重らを追い、荒神山城を陥落させ、織田方の鹿野城との連絡を回復
- ・織田方の第二次因幡侵攻で天正9年10月に鳥取城を落城させた羽柴秀吉は、窮地にあつ

た南條軍の救援に東伯耆へ向かい、馬ノ山に陣取る吉川元春と羽衣石山中にある十万寺城で対陣。この際に**荒神山城**の麓を通った可能性が濃厚

<トピック 亀井茲矩による町づくり>

朱印船貿易（南方貿易）を推進した亀井茲矩は、町の名称にインドの仏跡にちなんだ名称を付けたと言われる。

- ① 山川
  - ・城下町→鹿野苑（ろくやおん）
  - ・水谷川→流沙川（りゅうさがわ） 城下町の東側
  - ・河内川→跋堤川（ばったいがわ） 城下町の西側
  - ・鷲峰山=霊鷲山（りょうじゅせん） 王舎城の北東にあり、釈迦が法華経などを説いた山
- ② 城
  - ・鹿野城→王舎城（おうしゃじょう） 古代インドのマガダ国の首都
  - ・ →狗尸那城（くしなじょう） 鹿野城の西側
  - ・ →金剛城（こんこのじょう） 鹿野城の東側

【鹿野河内の自然環境の希少性】

①河内川では過去にオオサンショウウオの多数発見例がある。（近年では平成15年度）

・オオサンショウウオ：国指定特別天然記念物 ← 国宝と同じランク

②寿命

・100年ぐらい生きると思われている。 ← 正確な寿命は分かっていない。

③生活の様子

- ・年齢によって河川での生息エリアが異なる
  - ← 幼生：最上流 小型・中型：上流～中流 大型：中流～下流
  - ※決して山奥の淵にひっそりと住んでいる生物ではない
- ・年齢によって環境に対する強さが異なる
  - ← 幼生：きれいな河川以外では生きられない
  - 小型～大型：年齢を重ねるほど環境の良くない河川でもOK、敵も減っていく
- ・アルカリ性の水質で、河床が小粒の小石の河川を好む
- ・繁殖期（9～10月）は、大型個体も上流を目指して遡上、最上流の巣穴で繁殖
  - ← 最強のオスが巣穴で受精卵が孵化するまで2ヶ月近く1匹で守る
  - ※卵は上流域でないと孵化しない・・・理由は不明、水温に関係か？

溪流の王者



成体のオオサンショウウオ



オオサンショウウオの幼生

